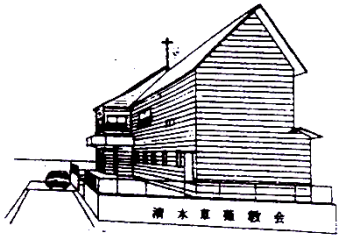
≪夕礼拝の聖書から≫

『使徒行伝』３：１１～２６が開かれます。その前の２節に“生れながら足のきかない男が、かかえられてきた。この男は、宮もうでに来る人々に施しをこうため、毎日、「美しの門」と呼ばれる宮の門のところに、置かれていた者である”とあります。ペテロとヨハネは３時の祈りの時を覚え宮にやってきましたが、この“足の効かない男”にとっては、宮も祈りの時も問題ではなく“施しをしてくれそうな人”を捜していたのです。それがまた生活の糧となっていたのです。もっともらえるようにはならないものか、昨日よりたくさん、と考えていました。彼にとっての恵みというのはこのようなものでした。救いというのは、金銭によって、少しでも良い生活をすることだったのでしょう。ペテロとヨハネを見るときもそのような視線で見ていました。“彼は何かもらえるのだろうと期待して、ふたりに注目していると、ペテロが言った、「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」（５～６節）”というところでこの男の人生観が全く否定された様子が分かります。“ここは捧げる場所、讃美する場所である、施しを受ける場所ではない”と彼らは言ったのです。“踊りあがって立ち、歩き出した。そして、歩き回ったり踊ったりして神をさんびしながら、彼らと共に宮にはいって行った（８節）”が、男の姿勢を変えてしまったことを示しています。２６節の“神がまずあなたがたのために、その僕を立てて、おつかわしになったのは、あなたがたひとりびとりを、悪から立ちかえらせて、祝福にあずからせるためなのである”に至る説教が続きます。教会の最も基本的な説教といえるでしょう。神を讃美するように変えられた男には、今までとは問題にならないほどの大きな無限の可能性が開けたのです。先週私たちは、大間兄を通してイエス様に出会った人の証を聞きました。実は私たちも出会っているのですが、忘れてはいないでしょうか。せっかく教会にいるのだから、うずくまっていないで、立ち上がって神様を讃美しなさいと、イエス様は今も語られるのです。そうすればこの足なえと同じように周りの人もびっくりするような祝福が与えられるのです。多くを捧げ、無限の多くを、今日、祝福として頂けるのです。

週　報

２００８年　１１月　１６日



伝えよう　救い主を
迎えよう　主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師　　村上　定幸

教会学校	毎日曜日	午前　9：00
礼拝式	毎日曜日	午前 10：30
	（聖餐式　第一日曜日）	
夕礼拝式	毎日曜日	午後　7：00
エステルの会	毎水曜日	午前 10：30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後　7：00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道３丁目２－２６
☎054-345-4070　E-Mail grace@big.jp